

みちしるべ NO. 1

学校教育目標「自分から行動できる子・すすんで学ぶ子・たすけ合う子・きたえる子」



学びあい 支えあい 高めあい 笑顔あふれる学校
優しさと厳しさと温かさで
子どもを鍛え、育む地域の学校を目指して



タブレットと学びあいで「令和の権小」づくりへ 校長 川島 正晴

桜の花びらが舞い、毬蕨の枝に新たな芽が息吹く季節となりました。
令和3年度の出発です。保護者、地域の皆様には、日頃、学校の教育活動や子どもたちの健全育成にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度も、感染症対策をしっかりとおこない、子どもたちに生きる力を育む一年に挑戦してまいります。



令和3年度の課題は、GIGA スクールを推進して個別最適な学びを実現すること、学びあいを充実させて主体的・対話的で深い学びを実現することです。
NHK 教育 TV「にほんごであそぼ」で有名な明治大学教授の斎藤孝さんはこう指摘します。

個性と創造性にあふれるモーツァルトが創造的活動をなしえたのは、反復練習による音楽技術の体得による。こんなことはあまりにも当たり前のことなのに、教育界においてさえも、反復練習を軽視したり嫌悪したりする人が増えている。漢字の書き取りひとつとっても、小学校で国語の時間中に徹底的に何度も反復練習をさせる教師はむしろ少ない。＜中略＞学校教育の最大の長所は、強制力があるということである。かけ算の九九は強制されなければ自然に覚えられないものではない。そうしたトレーニングは学校という場所に合っている。学校がトレーニングを軽視するようになれば、学校の社会的存在意義はいよいよ低下することになる。」

(斎藤孝『子どもに伝えたい＜三つの力＞ 生きる力を鍛える』,NHK ブックス 928,2001,pp.35-36.より抜粋)



文部科学省は矛盾しそうな二つを前面に、個性を尊重し、協働で課題を解決する「令和の日本型学校教育」を2020年代に推進することを決めました。GIGA スクール構想がこれを加速させます。一方で、斎藤孝さんは「反復」や「鍛錬」の大切さを訴え、技の身体化を重視します。

「令和の権小」の教育は、いずれも重視してコンピュータを使い、仲間と協力して課題を解決し、技を身に付けるために反復練習をします。学びの「ハイブリッド化」です。

幸手市教育委員会から学力向上の研究を委嘱されており、11月には研究発表を行います。今年「学びのハイブリッド化」も取り入れ、学力向上の取組を発表します。

ワクチン接種が始まり、今後の大幅な改善が期待される今、それでもマスクを着用し、検温とアルコール消毒を行い、感染症対策を続けなければなりません。当たり前のことが当たり前にできることがどれだけ幸せなことか。我慢すべきところは我慢し、できることを進めていきます。

遠足、バス旅行の見学や体験学習、修学旅行、運動会、・・・きちんと対策をとり、楽しい学校を紡ぎ出し、タブレットと学び合いで確かな学力を育て、子どもたちが主人公の学校づくりを推進します。権小は地域の学校です。地域の方々が見守り、学校で授業に加わり、行事に参画し、学校を共同で運営していきます。明治6年の創立から5月で149年目を迎える令和3年度。権小の教育は地域総ぐるみで。今年度も、家庭、地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。